

平成 21 年度春 IT パスポート試験分析速報

2009,4,19 (株) アイテック 情報技術教育研究グループ

1. 試験全体講評

新試験制度で今回が初めての試験となる IT パスポート試験について説明します。応募者数は初回試験としては予想を上まり 46,802 人でしたが、IT 全般の基礎知識を問うエントリーレベルの資格試験が受け入れられたものと考えます。

出題された問題の難易度は、事前に発表されていたサンプル問題に比べるとやや難しいと思われる問題もありましたが、出題範囲からまんべんなく基礎知識を出題した非常によい問題と思われます。

2. 問題講評

出題比率を分野、大分類ごとにまとめると次の表のようになります。個別の 4 択問題は 88 問で、後ろ 12 問は同じテーマで 4 問ごとに出題する中間形式です。

全体的な内容としては、基礎的な内容ではあるのですが、出題範囲が幅広いため、受験した人の知らない用語もたくさんあったと思います。

計算問題は 15 問出題され、多くはサンプル問題のレベルといえますが、いくつか難しいと思われる問題も含まれていました。

分野	大分類	平成 21 年春	分野合計
ストラテジ系	企業と法務	17 問	35 問
	経営戦略	11 問	
	システム戦略	7 問	
マネジメント系	開発技術	8 問	25 問
	プロジェクトマネジメント	10 問	
	サービスマネジメント	7 問	
テクノロジー系	基礎理論	9 問	40 問
	コンピュータシステム	11 問	
	技術要素	20 問	
合計		100 問	100 問

このような出題内容は、IT パスポート試験の対象者像である「職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識をもち、情報技術に携わる業務に就くか、担当業務に対して情報技術を活用していこうとする者」、つまり、ベンダ側、ユーザ側双方のエントリー試験として適切なものだといえます。

小問形式の問題には、初級シスアド試験や基本情報技術者試験の過去問題を元に作られている内容が多く、これらの過去問題やそれをベースに作成した予想問題を解いて学習していた人には難しくない問題であったといえます。

詳細について見ていくと、例えば問1の「コンプライアンス経営」に関する問題、問2の「個人情報保護法」に関する問題、問9の「不正競争防止法」に関する問題、問51の「請負契約」に関する問題は、過去の基本情報技術者試験と同じレベルであるといえます。このあたりは社会人として重要な知識ですので、今後も重要なポイントになります。

逆に問5の「CRM」に関する問題、問15の「知的財産権」に関する問題、問59の「DNS」に関する問題、問60の「プラグイン」に関する問題は比較的簡単な知識問題でした。

新傾向の問題としては、問6の「SaaS」に関する出題や、問79の「ブレード型サーバ」に関する出題といったトレンドに沿ったものもあるため、日頃からコンピュータ関連雑誌やインターネット上のニュース記事などに目を通しておくとい良いでしょう。

中間形式問題は一つのテーマで四つの選択問題を解く新しい形式ですが、従来の午後問題の簡易型といえます。初回の試験だったため、豊富な過去問題がなく、どのような問題が出題されるか受験生の多くの方も心配だったと思いますが、実際に出題された問題は中間Aを除けば基本的な知識を応用して解答できたと思われる。

中間Aではネットワーク接続構成に関する基礎的な内容ですが、実際に操作などしたくない人には難しかったと思われる。中間Bではデータベースソフトによるグラフ化とデータ分析の問題で比較的容易に解答できたと思われる。また、中間Cでは通信販売業務における業務量を計算する問題で、初級シスアド試験の午後問題と同じようなテーマですが簡単に解答が選択できる形式でした。

全体にやや難しい問題もあるのですが、各分野の最低正答率30%で、全体正答率60%という合格基準を満たす人はかなり出ると思われ、今までの情報処理技術者試験にない高い合格率になると予想されます。

以上